



2015-2016年度 R.I. テーマ



「篆刻」石崎 巖 会員



- ◆ 会長 木下 茂 ◆ 幹事 宮崎 繁幸
- ◆ 発行 会報委員会 10月担当 畠 山

第2329回例会 10月6日(火)

- ◆ 点 鐘 木下 茂 会長
- ◆ 司 会 宮崎 繁幸 幹事
- ◆ 国歌斉唱
- ◆ ローターソング 「奉仕の理想」
- ◆ 四つのテストの唱和 職業奉仕委員会
- ◆ ゲスト

魚津RC会長エレクト 中田 幸雄 様
 交換留学生 オリビア・スミス 様
 米山奨学生 マ・ヨウ 様



☺☺ ハッピーバースデー ☺☺



10月10日
木 下 君

◆ 会長挨拶

今日は誕生日を祝っていただき、有難う御座いました。帰って家族に早々とプレゼントをもらったことを言いふらせば、10月10日、今年は3連休になるので、大きな贈り物をねだれる口実になりそうです。

70代シニアライフをいかに有意義に過ごすか、年をとると時間が短くなり、なぜか時間の経過が早く感じられるようになるといいます。

たとえば、幼少時の1年と今の1年が短く感じる傾向は、フランスの心理学者「ジャンの法則：心理的な時間の長さは年歳の逆数に比例する」という説です。10歳の時の1年間は30歳なら4ヶ月に、60歳なら2ヶ月に感じる。年歳が2倍になれば時間の長さは半分に、年歳が3倍になれば時間の長さは3分の1に短くなるわけです。

若いころの初めての経験が、年とともに環境や生活の慣れで単調になり、次第に速く感じるようになるというメカニズムです。

自分の時間が情報通信の世界で、あまりのテンポの速さのせいかと思ったりもしますが、これからいかに自分に合った刺激のある生活を送っていくかがカギになるようです。

又、昨日、北里大特別栄誉教授80歳のノーベル医学生理学賞の受賞発表がありました。同時受賞は、アメリカの85歳、中国の84歳の学者です。

さて、先週は柳生ガバナークンパニオンを受け、多数の御出席有難うございました。

交換留学生オリビアファミリーも加わり、受入・送り出しの実績を目の当たりにされ、好印象で帰られたようです。

◆ 出席報告 (鈴木委員長)

- ・出席率 会員30名中(出席免除者2名) 25名 89.28%
- ・欠席者 南君、富川君、横谷君の諸君
- ・前々回 (2327回) の修正 メーク・アップ なし

◆ 幹事報告

- 在来線等対策連絡協議会より
 - ・講演会ご案内
- 財務省北陸財務局富山財務事務所より
 - ・例会等への講師派遣について (お願い)

☆10月度例会案内

	活動内容	例会場
10/13(火)	卓話担当：久津谷君 Rの会：情報紹介	信金5階
10/20(火)	滑川RC合同例会	喜楽
10/27(火)	卓話担当：吉野さん	信金5階

★10月のSAA補助

慶野君・吉野さんの諸君です。よろしくお願ひします。

◆ ニコニコボックス

- ・魚津RC会長エレクト中田幸雄様：志

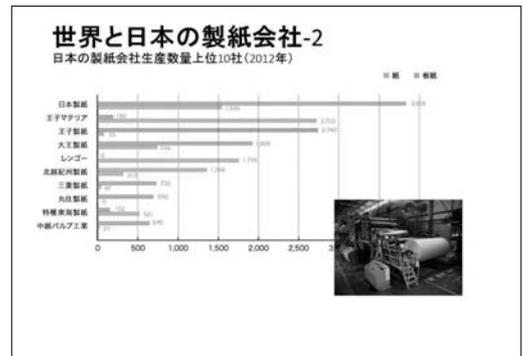
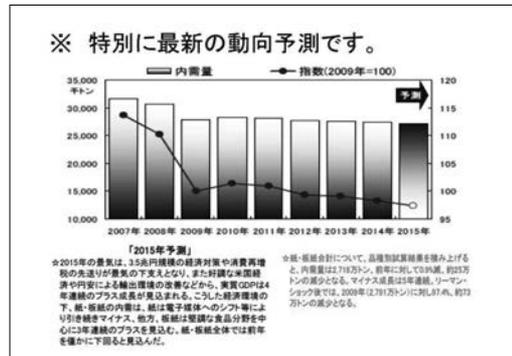
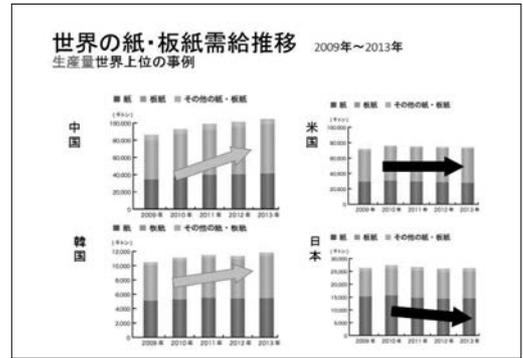
今週までの合計額 240,000円

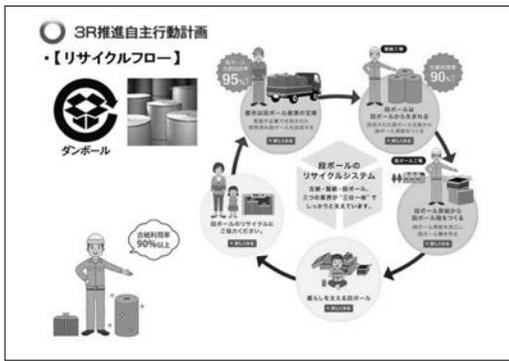
◆ 卓話「世界の紙

ー板紙の現状について2015」



魚津RC会長エレクト
中田幸雄様





第2330回例会 10月13日(火)

- ◆点 鐘 木下 茂 会長
- ◆司 会 宮崎 繁幸 幹事
- ◆ロータリーソング 「我等の生業」

㊦ ハッピーバースデー ㊦

・10月26日 佐々木 夫人

◆会長挨拶

今年は大型連休が春・秋2回、日・月曜日の連休が4回あります。人の出入も大変多いようです。

北陸新幹線が開業して半年余り、乗車人数が500万人を越え、在来線の特急だった前年同期の3倍以上と、当初予測をはるかに超えています。

魚津を拠点に東京、大阪、名古屋へは、毎回乗継を考えながらの出張です。

日本の新幹線は世界に誇る鉄道ですが、安全性やスピードのみでなく、運行の正確性や人材育成等のソフト面においても、世界の鉄道を圧倒しているといっても過言ではありません。

東海道新幹線は年間10数万本運行していますが、1列車別の平均遅延時間は30秒、運行管理は15秒です。

JR西日本は「サンダーバード」を全車輻改装するそうですが、新幹線の乗り心地は、レールの構造、車輛の機能の向上を一段と上げています。

来週は、滑川ロータリークラブとの合同例会です。

多数出席して、少人数のクラブを元気づけてあげましょう。

◆出席報告 (鈴木委員長)

- ・出席率 会員30名中(出席免除者2名) 22名 78.57%
- ・欠席者 芦崎さん、畠山君、原君、窪田さん、小林君、宮田さんの諸君
- ・前々回 (2328回) の修正 なし

◆幹事報告

○ガバナー事務所より

- ・ガバナーノミネー (2018-2019年度ガバナー) 候補の告知について

☆10月度例会案内

	活動内容	例会場
10/20(火)	滑川RC合同例会	喜 楽
10/27(火)	卓話担当：吉野さん	信金5階

★10月のSAA補助

慶野君・吉野さんの諸君です。よろしくお願ひします。

◆ニコニコボックス

今週までの合計額 245,000円

◆卓 話 「魚津の神々

ー魚津を舞台に神々の

歴史がつくられたー」



久津谷 俊行君

魚津には、非常に興味深い二柱の神が祀られています。一柱は建御名方神(たけみなかたのかみ)であり、もう一柱は建御雷神(武甕槌神-たけみかづちのかみ)です。建御名方神はたてもん祭りでも有名な諏訪神社の祭神であり、武甕槌神は8号線バイパス沿いにある建石勝神社に祀られています。魚津にはこの二柱の神が祀られている神社が存在することが興味深いのです。

この二柱の神については、昔から神話の中で話題になっている事件がありました。いわゆる「出雲国の国譲り」事件です。昔出雲の国の大国主神が支配していた国の支配権を奪われそうになりました。それを阻止しようと大国主神は自分の息子である建御名方神を代理として遣わし、攻めてくる武甕槌神と戦わせることになるのです。この二柱の神については双方とも武力に長けていたといわれ、おそらく壮絶な戦いがあったのではないかと想像されます。ちなみに戦いの結果は武甕槌神の一方的な勝利でした。武甕槌神を別名「雷さま」とも言い、幼い子供はもとより誰からも恐れられる存在です。今は、茨城

県の鹿島神社の祭神であり、奈良の春日大社の祭神でもあります。軍神と言われ特別武力に優れた神です。敗れた建御名方神はその後長野の諏訪まで逃げ落ち、そこで一生の間閉じ込められることになるのです。それが今全国から参詣の絶えない名のある諏訪大社です。

ここで今話題にしたいのは、この二柱の神はいついどこで戦ったのかということです。出雲の国なのか、それとも越の国なのか。これについては出雲の国であったと思われがちですが、必ずしもそうではないようです。出雲の国といえば今の出雲大社を中心とした山陰地方と考えがちですが、実は我われの住んでいるこの越の国も出雲の国の勢力範囲であり、出雲の国の一部だったようです。

しかし、越の国はもともと武甕槌神の支配下にあったようです。それが大国主神によって越の国を出雲の国に組み込んでしまい支配するようになっていたといわれています。武甕槌神が建御名方神と戦ったのは昔の領地を取り返すための雪辱戦だったのです。ですから正確には「出雲国の国譲り」ではなく「越の国の取り返し（越の国の国譲り）」と考えるのが本当のようです。その時、越の国を統治していたのが成長した建御名方神ですから、当然越の国にいたことになります。では二柱の神の戦いの場所は越の国のどこなのでしょう。

越後には建御名方神を祀る神社が多く分布します。信濃川沿いと柏崎、上越、糸魚川あたりが特に多いのです。建御名方神が越の国を支配していた領主であったことがうかがわれます。この分布だけをみると越の国といっても上越、中越地方が戦いの場所であったと考えられないこともないのですが、問題は武甕槌神の足取りです。

武甕槌神を祀る神社が越後方面には五社ありますが、そのうち三社が他の神と合祀されていたり配祀されていたりしているので、戦場と考えるにはあまり適当ではありません。

糸魚川市でも武甕槌神を祭神とする神社に大神社と大野神社がありますが、論社に比定（一定のものと認めず決定しがたいこと）し、複数の神が合祀されていて武甕槌神の影響力が弱くはっきりしないところがあります。ですから武甕槌神は越後にはいかなかったはずで、では武甕槌神はどこにいたのでしょうか。

出雲の国が存在した時代、いくつかの神の国がありました。その一つが飛騨国です。この国も強い勢力を持っており、この国の支配者がかの有名な天照大御神でした。天照大御神についてはいろんな説があるようですが、ここでは飛騨国の支配者だったという説に従って話を進めたいと思います。その重臣であった武将が武甕槌神でした。越の国の支配権を奪い返すため、天照大御神が武甕槌神を飛騨国から越の国に派遣したということです。ですから武甕槌神は飛騨国にいて越の国に進撃したことになります。では武甕槌神は飛騨国からどのようなルートをとって越の国にはいったのか。おそらく飛騨の国から神通川に沿って北上し、越中の国に入ったのではないかと考えられます。越の国といってもまさに越中の国が二

柱の神が向きあった場所になるわけです。武御名方神は越後から西に向かって越中に入り、武甕槌神は飛騨国から神通川沿いに越中に入り、それから東に向かったということです。そうすると両者が対峙した場所はこの新川地区であり、魚津近辺になるというわけです。

そこで、魚津の建石勝神社に注目したいのです。この神社は建御雷神（武甕槌神）の一神のみを祀り、神社の名称に「建」の字を止めていること、往古の昔から存在していたと伝えられる歴史ある神社であること、上越地方の神社よりも格式が高いことなどから武甕槌神に対し特別崇高な信仰をもつ神社であると考えられます。したがって武甕槌神の存在感が強く感じられる神社です。おそらく建御名方神とこの魚津で戦ったのではないのでしょうか。

ただし魚津の諏訪神社は後年の701年に長野の諏訪大社から分霊されたといわれていますので、神話時代の「越の国の国譲り」事件の年代には符合しません。しかし魚津の武甕槌神信仰は古くからあって、地域の民衆に深く根付いていたことに加え、701年といえば、中央では大化の改新から50年経ち大宝律令が制定され、政治基盤が整い税制や戸籍制度も整備されるなど社会が安定した時代だったということが出来ます。また701年は魚津を発祥の地とする立山開山もこの年であり、この時代神仏に対する信仰心には篤いものがあつたことが想像されます。その時民衆の中で信仰心とともに「越の国の国譲り」事件の痕跡をこの魚津にのこしたという村おこしの盛り上がりがあつたとしても不思議ではありません。民衆の心が一つになって諏訪神社の祭神、建御名方神の分霊勧請につながったのではないかと考えられます。

これが建御名方神と武甕槌神の戦いのあつた場所が魚津ではないかという理由です。

果たしてこの二柱の神の戦場は魚津だったのでしょうか。それともどこだったのでしょうか。この魚津をしんきろうの名所とともに「神話のふるさと」の一つとして名乗りを挙げてもいいのではないのでしょうか。

